

項目	概要
日時	2023年2月24日(金) 10:00~11:10
場所	Web会議によるオンライン開催 (Zoom)
議事次第	(1)開会 中尾彰宏 国際委員会委員長ご挨拶 (2)Beyond5G/6G における諸外国動向調査報告 古賀総研 田中様 (3)MWC23 出展企業 ご講演 日本航空電子工業 三上様 (4)技術分科会活動状況報告 (5)事務局よりお知らせ (6)閉会 中尾彰宏 国際委員会委員長ご挨拶
参加者数	約75名

以下、議事要旨。

(1)開会 中尾彰宏 国際委員会委員長ご挨拶

- 海外において、6Gの技術開発の動きが具体的になっていると肌で感じる。先日、米国および欧州に出張して、様々な組織と意見交換をしてきた。総会でも議題にあがると思うが、特に米国のNext G Allianceそれから欧州はSNS (Smart Network Service) という、6Gを通して、900millionyユーロのファンドを組成し投資しているという動きがある。欧州委員会に日本の状況を話す等して状況を確認する機会があったが、各国で開発が進められ、標準化に向けて動き弾得ている状況が分かる。
- 本日も海外調査の結果を報告してもらうが、国際連携の重要性はいうまでもなく、次の世代のモバイルネットワークの開発にとって重要であり、ぜひ参加者の皆さんで情報交換をしていただき、連携そのものの促進や、国内企業マーケット開拓支援等の動きに繋がると良い。

(2)Beyond5G/6G における諸外国動向調査報告について発表が行われた。質疑応答における、古賀総研田中様の答弁は下記の通り。

- Hexa-X から Hexa-X2 への転換は、どのような位置づけなのか？
 - テストベッドをくみ上げることに主眼が置かれ、フェーズが変わりつつある点に特徴がある。(田中様)
- Beyond 5G という言葉は、日本だけでなく、海外でも利用されているのか？
 - 日本だけでなく海外でも一般に利用されている。(田中様)
- 3GPP アライアンスと Next G Alliance、ITU-R との関係性は、どのようなものか？3GPP の役割が低下しているのではないかという懸念はあるか？
 - ITU-R の動きを受けて 3GPP で標準化が進むというスケジュールはある程度決まっているが、3GPP の役割が低下するという点はない。(田中様)

- 3GPP と Next G Alliance は提携関係にあり、どちらかが優勢になる、ならないということはないのではないか。(中尾委員長)
- 欧州の B5G プロジェクトにおいて、複数のプロジェクトをどうすみ分けているのか。重複する複数のプロジェクトに、同一の研究機関が参加しているような事例も見られる。
 - Reconfigurable Intelligent Surface 等の技術に関するプロジェクトが様々勃興している中、Hexa-X の登場の後、それらを束ねるような方向性になっていると認識している。Hexa-X2 のフェーズに移ると、更に加速するのではないか。(田中様)
 - SNS (Smart Network Service) の活動は、ファンド毎にストリームという概念ごとに A,B,C と別れていて、大きさが分けられている。住み分けをどうしているか、という点は表には出てこないが、裏ではあるかもしれない。(中尾委員長)
 - 6GIA の SNS ファンドを見ている担当者は、●●のプロジェクトはスコープに含まれるのか、という質問を頻繁に受けるようで、FAQ を Web サイトに掲載していたと記憶している。B5G コンソとして MOU があるため、今後直接他団体と対話出来るような機会が増えれば、国際委員会として良い機会なのではないか。(中尾委員長)
 - Hexa-X 等がアライアンスの取り纏めをすることになるか。(田中様)
 - Next G Alliance がバックにいるのではないかと想定している、Google 等の企業が参加しているファンドがあり、2021 年頃から活動していると聞いている。このような動きを今後調査して頂きたい。(中尾委員長)
- Rohde & Schwarz 社が中国企業等も含めて様々な企業に重宝される理由はあるのか。
 - 測定器の分野では、Rohde & Schwarz 社と Keysight 社が主な企業だが、Keysight 社を含む他社に比べて、中米の対立がある中、中国側に対して抵抗感を示さなかったことが要因と考えられる。(田中様)
- メタバース領域の中で注目すべき動きはあるか、
 - デジタルツインをメタバースに含めるのかどうかという議論があるが、デジタルツインも含めて考える必要がある。Siemens、Nokia、Ericsson も含めてメタバースと考えている。デジタルツインを完全な仮想空間と考えて分析している研究者もおり、Siemens 等は、仮想空間を含めてメタバースと位置付けて事業を行っているのではないか。(田中様)
 - そのような中、特段進んでいる企業はないが、例えば NVIDIA 社の「NVIDIA Omniverse プラットフォーム」については、AI を活用しており、アプリケーションそのものではなく、プラットフォームであるが、ひと

つ注目に値する動きなのではないか。(田中様)

(3) MWC23 の出展企業として、日本航空電子工業の三上様より発表が行われた。

(4) B5G の技術分科会の活動状況について発表が行われた。

(5) 今後の会合について発表が行われた。

(6) 閉会 中尾彰宏 国際委員会委員長ご挨拶

- 国際連携の活動の重要性は繰り返し申し上げるもないが、海外のプロジェクトは、欧州・米国の活動の具体化が進んでいる。来週からは MWC も開催される中で、海外の B5G のランドスケープも把握しつつ、国内企業が海外と連携してマーケット開拓する動きが進めば良い。B5G 時代には日本単独で 6G を実現することは難しいことから、パートナー探索等も進めながら、コンソ会員企業の皆さんと取り組んでいきたい。
- 新経営戦略センターのイベントで、Next G Alliance、Hexa-X、Hexa-X2 に向けたプレゼンテーションおよびパネルディスカッションを開催した。その際、国際連携の重要度について言及があり、B5G コンソ側からの一方的な形ではなく、3 団体からも連携を考えてもらっている状況である。今後も、このような形で国際連携戦略を進めていきたい。

以上